

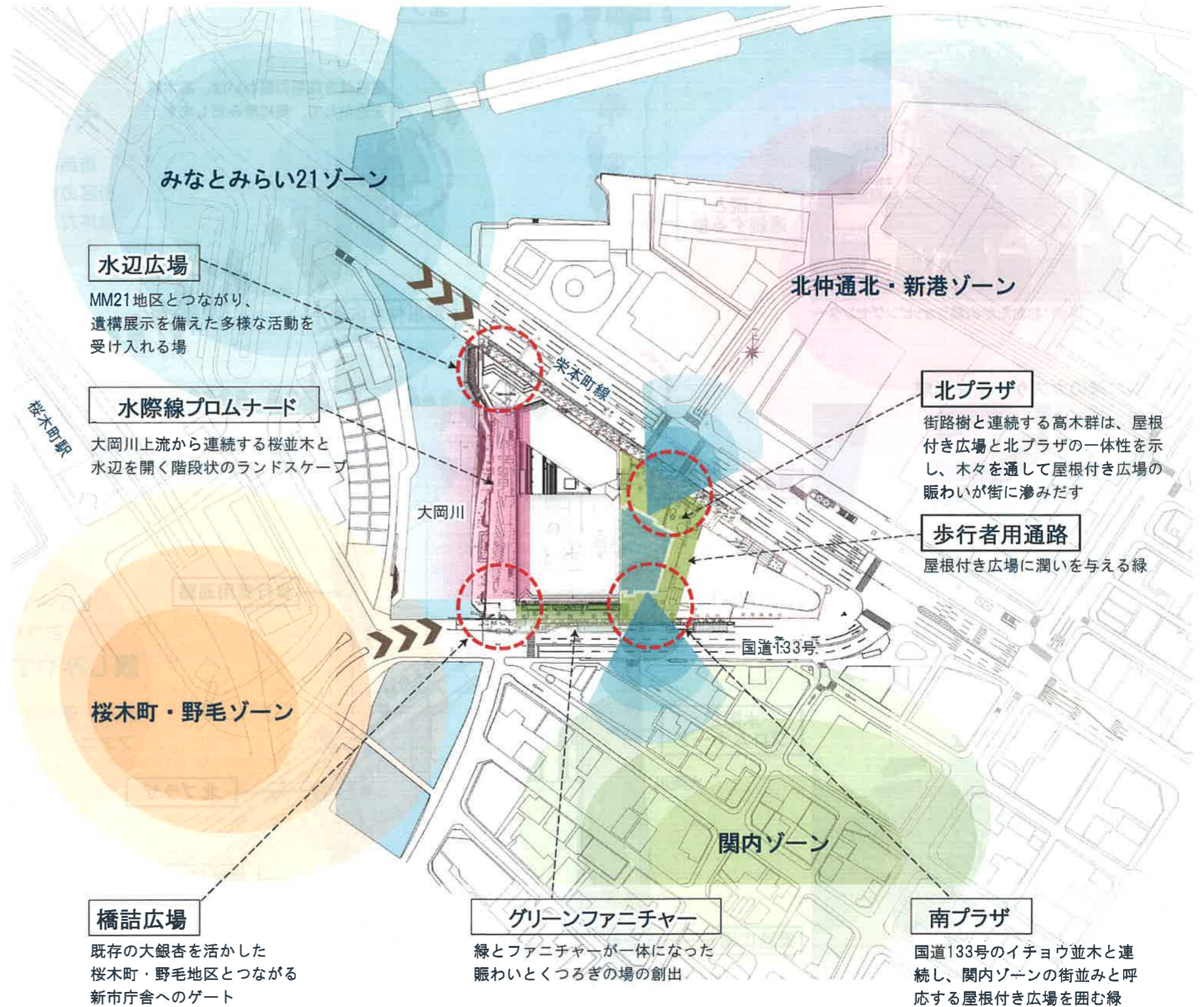
1. 緑の構造



このエリアの緑は、ウォーターフロントの軸線上に展開するA.海辺の緑と、大通公園から横浜公園を経て日本大通りへとつながるB.緑の軸線が構造をつくっているといえます。そして、縦糸と横糸のような街路樹によってこの二つの緑が紡がれることで、街が彩られています。その中で、本計画の敷地は、大岡川沿いの水辺に展開する①桜並木や、国道133号の②イチョウ並木、栄本町線の③クスノキ並木に面しており、街の結節点であるとともに、緑の結節点としても位置付けることができます。

2. 街の結節点としての風景づくり

新市庁舎のランドスケープは、横浜の代表的な街を紡ぐ緑の結節点として、関内ゾーンや、みなとみらい21ゾーン、北仲通北・新港ゾーン、桜木町・野毛ゾーンの各エリアと接続する①桜並木や、②イチョウ並木、③クスノキ並木の特徴を取り込み、多様性のある表情をつくりだします。また、敷地の4つの角には広場を配置し、各エリアを受ける場として設えます。



水辺広場

MM21地区とつながり、遺構展示を備えた多様な活動を受け入れる場

水際線プロムナード

大岡川上流から連続する桜並木と水辺を開く階段状のランドスケープ

北プラザ

街路樹と連続する高木群は、屋根付き広場と北プラザの一体性を示し、木々を通して屋根付き広場の賑わいが街に滲みだす

歩行者用通路

屋根付き広場に潤いを与える緑

桜木町・野毛ゾーン

橋詰広場

既存の大銀杏を活かした桜木町・野毛地区とつながる新市庁舎へのゲート

グリーンファニチャー

緑とファニチャーが一体になった賑わいとくつろぎの場の創出

南プラザ

国道133号のイチョウ並木と連続し、関内ゾーンの街並みと呼応する屋根付き広場を囲む緑

市庁舎としての品位を保ちながら、明るく親しみやすい緑あふれるランドスケープ

全体の構成としては、街区スケールをつくり出す高木群（上層）の「大きな緑の構成」と、ヒューマンスケールをつくり出す花木・灌木群（下層）の「親しみやすい緑の構成」が重層することで成立します。上層では街路樹と連続する秩序だった配置をすることで、市庁舎らしいフォーマルな緑を演出します。また、屋根付き広場内の人々の動きや活動が、秩序だった高木群に縁取られて街並みの一部になります。下層では開港の街としての歴史文化を踏まえ、輸出入された園芸種や、郊外地区の植生等を取り入れた明るく親しみやすい緑空間によって、賑わいやくつろぎの場を創出します。

街角や広場のシンボルツリー



事例：おおたかの森ショッピングセンター

街の中に緑のカスケードを形成

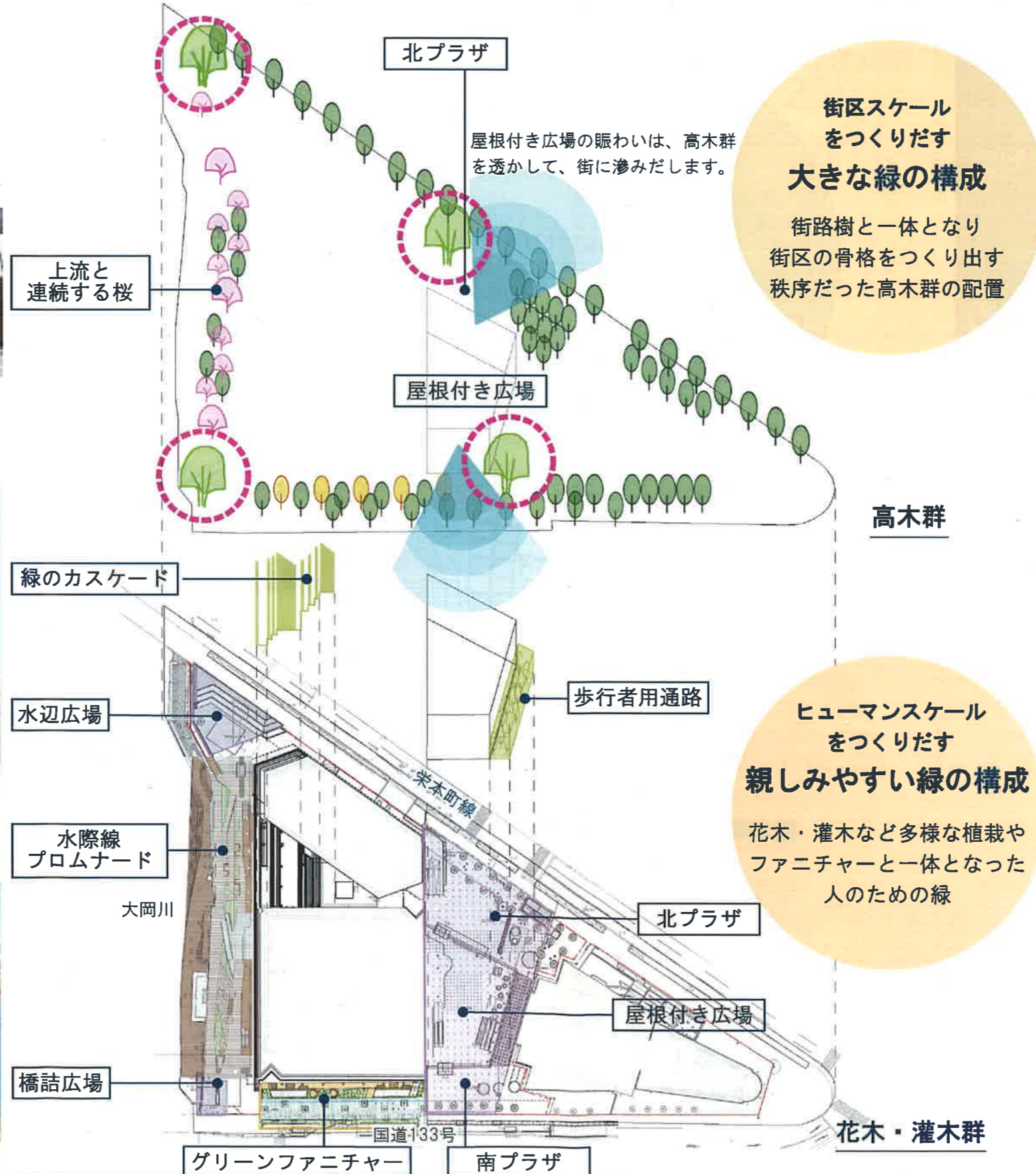


既存ウッドデッキから緑のカスケードを眺める

広場の一角には花壇を設置



北仲橋方面から水辺広場を眺める



北プラザ・南プラザのフォーマルな緑



北プラザを通して屋根付き広場を眺める

屋根付き広場に潤いを与える緑



屋根付き広場内から歩行者用通路を眺める

緑とファニチャーが一体となった賑わいとくつろぎの場



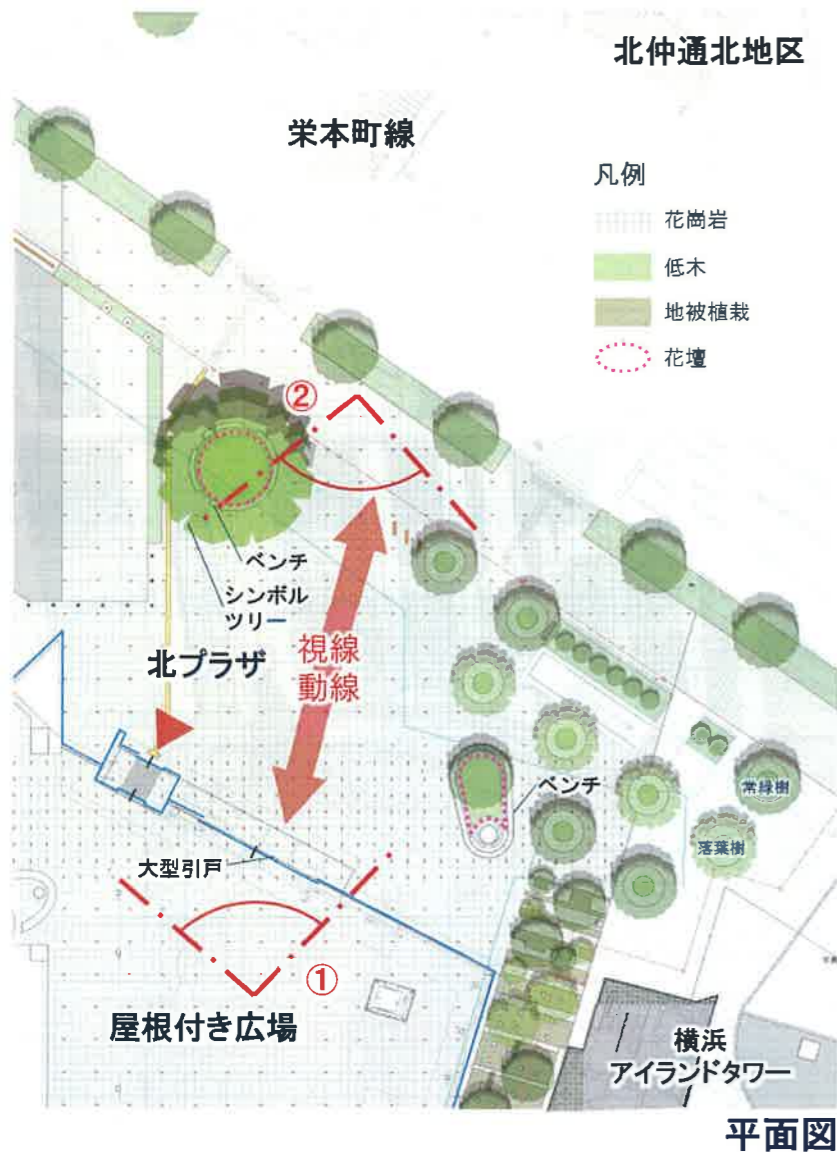
国道133号側のグリーンファニチャーを眺める

街路樹と連続する高木群は、屋根付き広場と北プラザの一体性を示し、木々を通して屋根付き広場の賑わいが街にしみだす

栄本町線の街路樹と一体的に街区の骨格をつくり出すとともに、北仲通北地区からの動線や視線を受け入れるために、秩序だった高木群として緑を配置します。これによって、大きな建築スケールに負けない緑量を確保しながら、木々の間から屋根付き広場の賑わいが街にしみだします。また、大型引戸を開放することで、北プラザを屋根付き広場と一体的に利用することができます。さらに、ベンチ等の設置によって、憩いの場としても設えています。



① 屋根付き広場から北プラザ、北地区方面への眺め



② 北仲通北地区側からの眺め



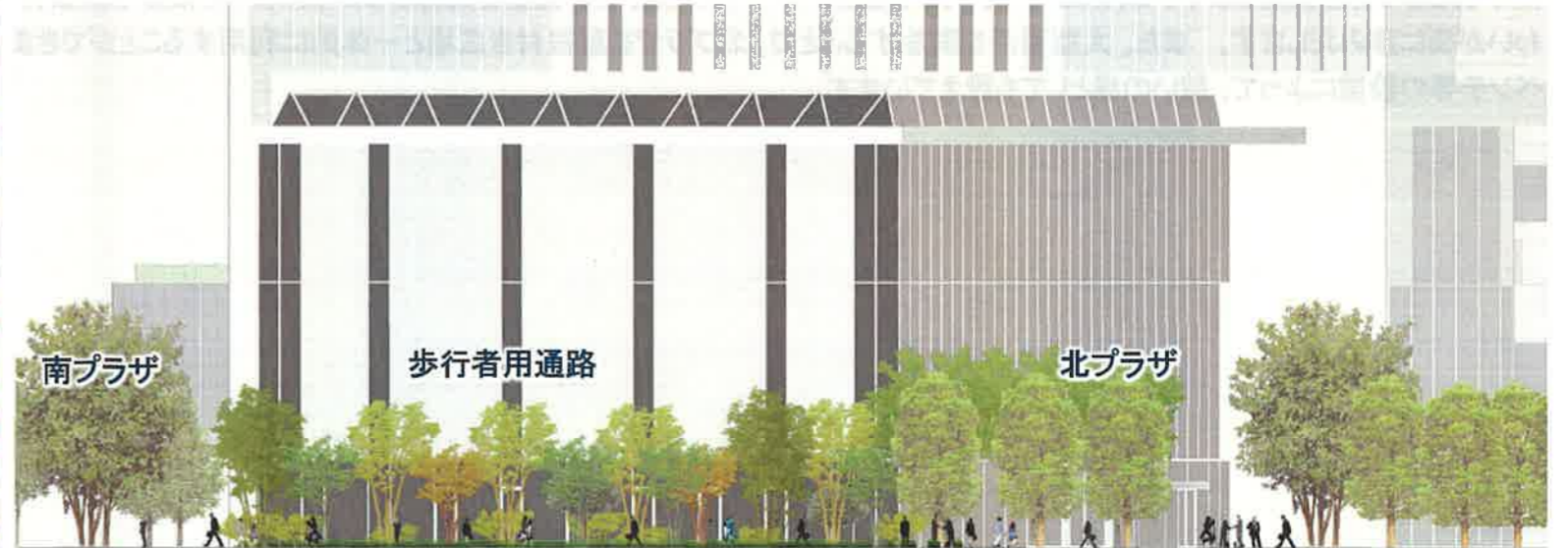
歩行者用通路平面図

屋根付き広場に潤いを与える緑

屋根付き広場から眺めて楽しめる庭としての緑とします。歩行者用通路として北プラザと南プラザを動線的に連続させるとともに、木の勢いを南北にしみださせることで視覚的にも連続させます。床には飛び石を配置することで歩行を促し、庭としても通路としても設えます。



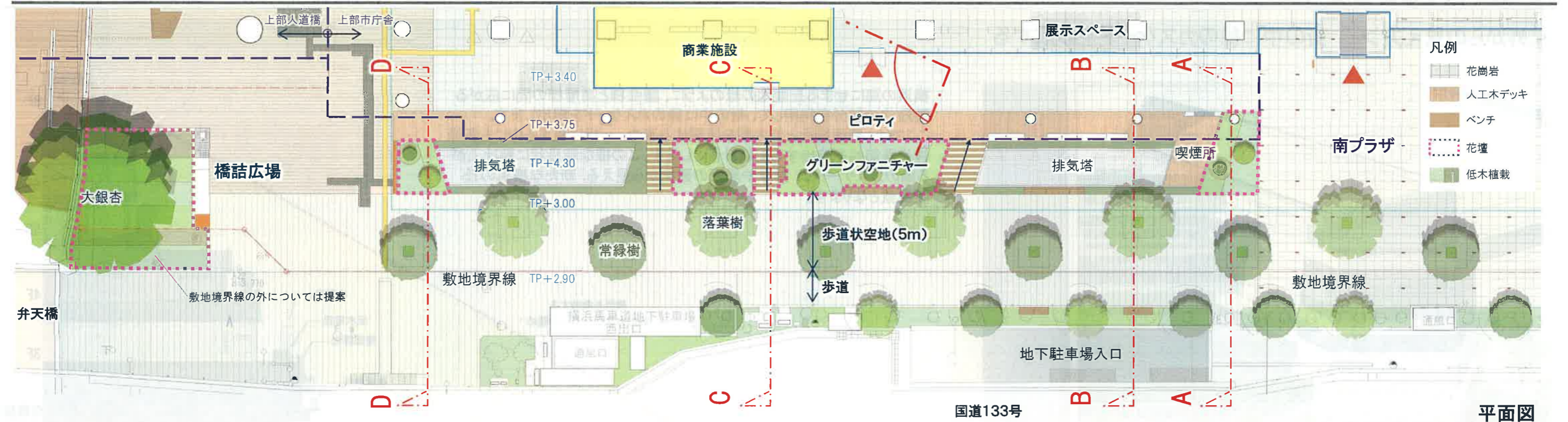
事例：プリリア多摩ニュータウン



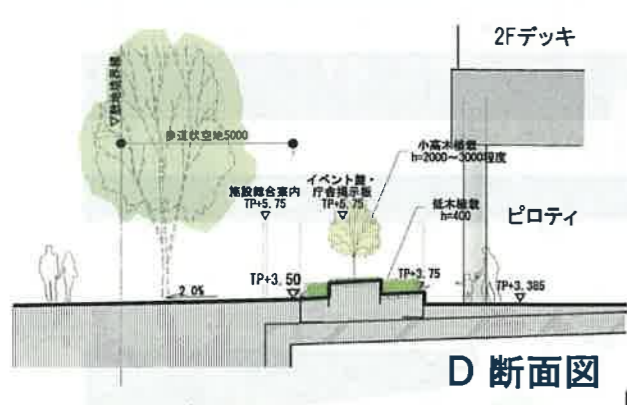
歩行者用通路 立面図



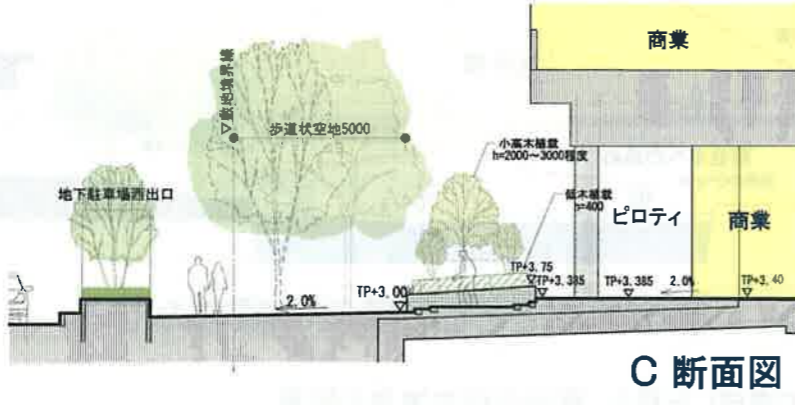
屋根付き広場からの眺め



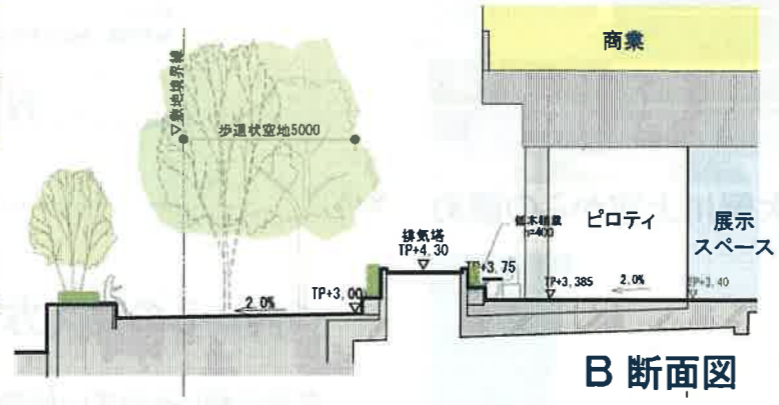
平面図



D 断面図



C 断面図



B 断面図



A 断面図



ピロティ空間からの眺め

緑とファニチャーが一体になった賑わいとくつろぎの場の創出

国道に面する敷地には、ピロティ空間と一体的に使え、緑とファニチャーを組み合わせたグリーンファニチャーによって、賑わいとくつろぎの場を創出します。低木植栽の間や大銀杏の足元には、まとまった花壇等を配置し、園芸種を植えることができる場として設えます。また、歩道状空地では、常緑樹と落葉樹を千鳥状に列植することで、国道の街路樹と一体となって、季節を感じられる場になります。



<外からの見え方> 街の中に緑のカスケードを形成する

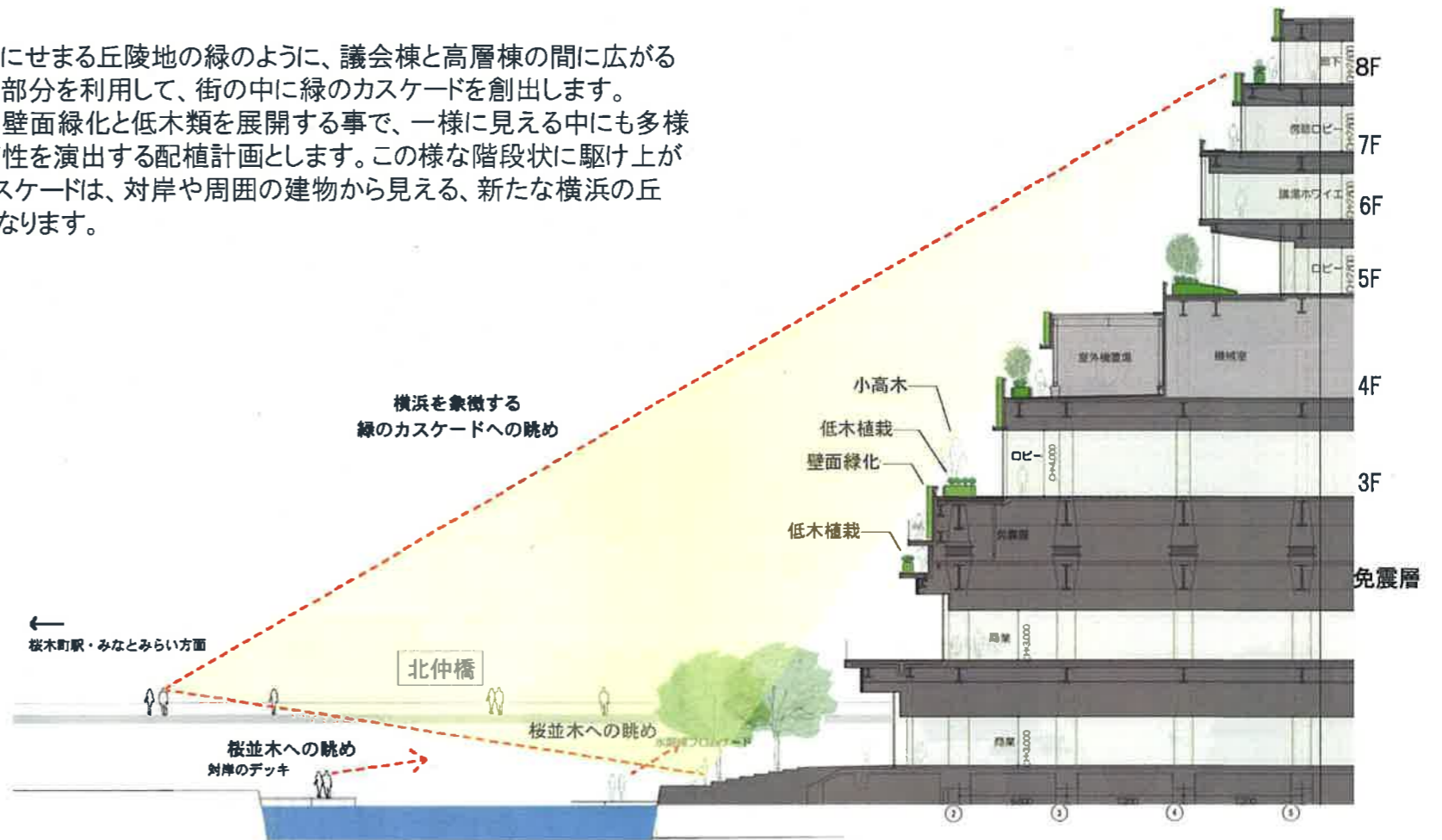


大岡川上空からの眺め



既存ウッドデッキ付近からの眺め

横浜の海にせまる丘陵地の緑のように、議会棟と高層棟の間に広がる階段状の部分を利用して、街の中に緑のカスケードを創出します。ここでは、壁面緑化と低木類を展開する事で、一様に見える中にも多様性や季節性を演出する配植計画とします。このような階段状に駆け上がる緑のカスケードは、対岸や周囲の建物から見える、新たな横浜の丘陵風景となります。

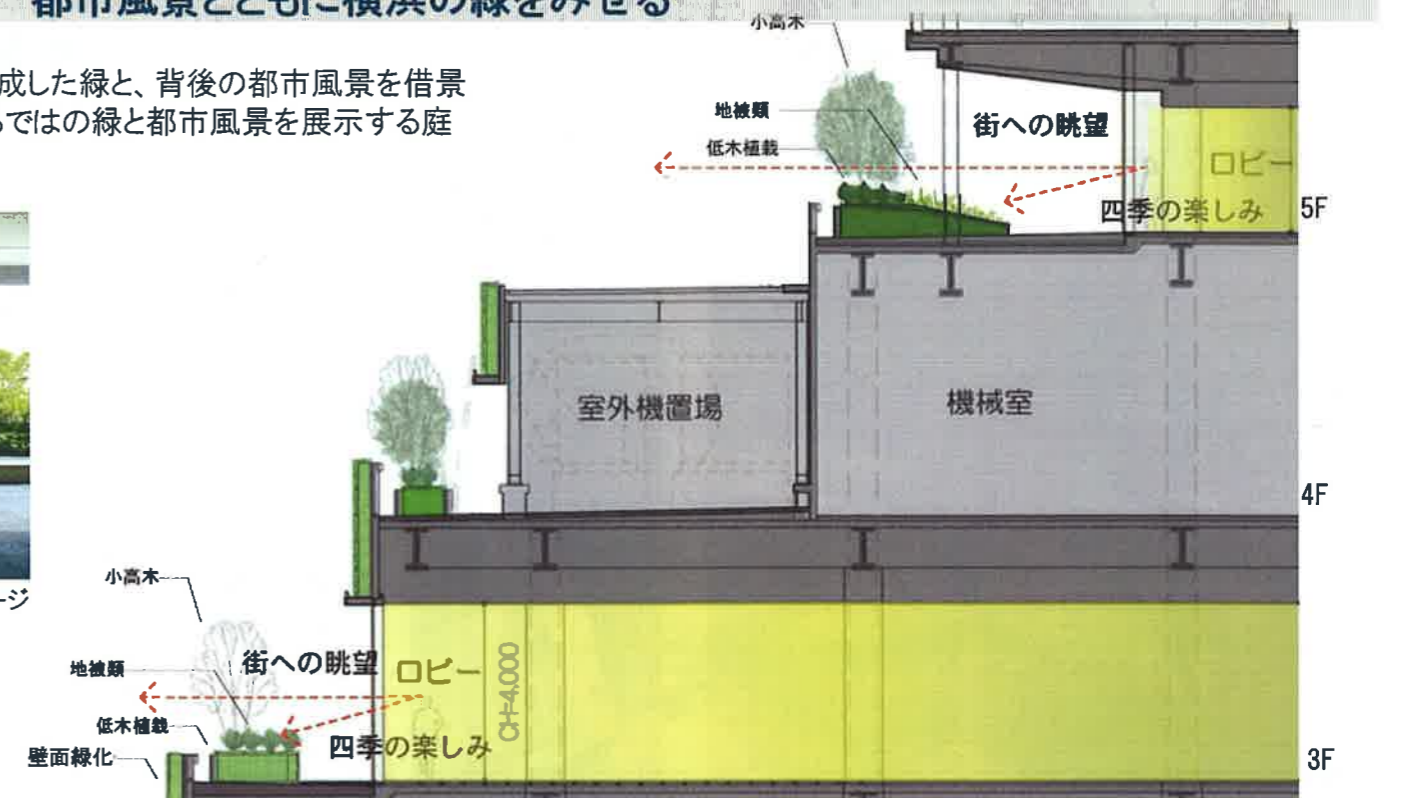


<内からの見え方> 都市風景とともに横浜の緑をみせる

市民に親しみやすい植物で構成した緑と、背後の都市風景を借景として取り込むことで、横浜ならではの緑と都市風景を展示する庭を設えます。



ガラス越しに見る緑と都市風景のイメージ





① 水辺広場の様子



② 既存ウッドデッキ付近からの眺め



③ 人道橋からの眺め



大岡川上流から連続する桜並木と水辺を開く階段状のランドスケープ

大岡川に面する敷地には、上流から連続する桜並木を配置するとともに、水辺を開く階段状のランドスケープを設えます。階段状のランドスケープは、どこにでも腰かけることができ、ミニコンサート等のアクティビティをサポートします。また、屋根付き広場と視覚的・動線的・空間的に連続する溜り場は、水辺の賑わいに貢献します。